

川田さんの学級では、ふしぎな出来事がえがかれていた物語を読み、友達としようかいし合うことにしました。川田さんは、「もうすぐ雨に」という物語を選んで読み、気になるところにふせんをはっています。次は、【物語のこれまでのあらすじ】と【物語の一部】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【物語のこれまでのあらすじ】

登校前、あみ戸とまどガラスの間にはさまっているかえるを見つけた。ぼくは、助けようと、まどとあみ戸を動かしてみた。しかし、かえるは動かず、ぼくをじっと見つめるばかりだった。「ありがとうって言いたいのかな」。動物の言葉が、分かれればいいのになあ。」と言うと、かえるがまばたきして、どこかでチリンとすすみたい音がした。どこにもすすずなんかない。ふと見ると、かえるもいなくなっていた。かえるもすすずも、さがしているひまなんかない。ぼくは、学校に向かうために、急いでかいだんをかけ下りた。

【物語の一部】

(朽木 祥 「もうすぐ雨に」による)

(朽木 祥

「もうすぐ雨に」による)

(朽木 祥 「もうすぐ雨に」による)

- 一 川田さんは、文の意味をもう一度たしかめるために、――部アとエの文を読み返しています。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。
- (1) 次のアの文について、……………部「止まっていた」の主語としてふさわしいものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

ア 電線の上には、大きなからすが止まっていた。

- 1 電線の
- 2 上には
- 3 大きな
- 4 からすが

(2) 次のエの文について、……………部「大きな」ほどの言葉をくわしくしていますか。ふさわしいものを、あとの1から4までのなかから一つ選んで、その番号を書きましよう。

エ だけど、みんなでもどからのぞいてみたら、大きな黒い雲がむくむくわいていた。

- 1 黒い
- 2 雲が
- 3 むくむく
- 4 わいていた

二 川田さんは、ふせんをはったところをもう一度読んでいます。次の(1)と(2)の問いに答えましよう。

(1) 川田さんは、……………部イに表れている「ぼく」の気持ちについて考えています。その説明としてふさわしいものを、次の1から4までのなかから一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 動物の音が聞こえることにおどろいて、とまどっている。
- 2 動物の音が聞こえるのは自分一人だと思い、がっかりしている。
- 3 動物の音が聞こえてにぎやかな様子が思いうかび、よろこんでいる。
- 4 動物の音が聞こえることがたしかめられて、こうふんしている。



(2) 川田さんは、――部ウについて、「ぼく」がこまった理由を考えています。その説明としてふさわしいものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 雨がふると、昼休みに運動場で遊べないと思ったから。
- 2 教室でみんなから注目されて、うれしくなったから。
- 3 動物から聞いたと言っても、信じてもらえないと思ったから。
- 4 もうすぐ雨がふるのに、かさを持ってきていなかったから。

三 川田さんは、「もうすぐ雨に」を読み、しょうかいする文章を書いています。次の【川田さんの文章】のA A の中に入る内容として最もふさわしいものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

【川田さんの文章】

わたしは、「もうすぐ雨に」という物語をしょうかいたします。

この物語では、チリンという音が鳴ると、動物の声が聞こえるというふしぎな出来事が数回起こります。

最初は、「動物の言葉が、分かればいいのになあ。」と言っていた「ぼく」が、ふしぎな出来事を通して、最後には、

A

最後まで読むと、雨がやんだ後に広がる青空を見たときのようにさわやかな気持ちになります。ぜひ読んでみてください。

- 1 動物の声が聞こえなくても、いつ雨がふり出すかが分かるようになります。
- 2 動物の声が聞こえなくても、動物の思いをよく考えることができますようになります。
- 3 動物の目をじっと見るだけで、チリンというすずのような音が聞こえるようになります。
- 4 動物の目をじっと見るだけで、動物の声を聞くことができますようになります。